

地域医療の現場から



# 地域医療を守るために

## へき地自治体病院の現状と取り組み

上天草市立上天草総合病院 医療相談員 東矢義光

### 病院の概要

- 対象とする住民人口：約3万2千人
- 設立年：昭和39年7月
- 許可病床数：195床
- 入院基本料：10対1
- 職員数：342人  
(医師21人、看護師98人)



### 大自然に囲まれた地域唯一の総合病院

「阿蘇や雲仙、霧島までも、龍ヶ岳から一眺め」。これは、「十五夜お月さん」「シャボン玉」などの童謡で有名な野口雨情さんが、龍ヶ岳山頂での絶景を詠まれた俳句です。上天草総合病院は、この龍ヶ岳の麓にあり、目の前には、穏やかな不知火海と天草の島々が広がり、ゆったりとした時間が流れ、大自然が患者さまへも癒やしを与えてくれます。

昭和39年に70床の龍ヶ岳町立病院として開設した当院ですが、現在では、看護専門学校・健康管理センター・訪問看護ステーション・在宅介護支援センター・居宅介護支援センター・介護老人保健施設「きららの里」も付設し、病床数は195床(一般137床・亜急性12床・療養46床)、1日の延べ外来数は550名で、上天草地域唯一の総合病院です。

### 経営健全化を目指して新たなスタート

天草の玄関口である上天草市は、平成16年3月に大矢野、松島、姫戸、龍ヶ岳の4町が合併して市となりました。これに伴い、当院も市立病院となりましたが、大半の自治体病院と同様に、赤字経営体制の問題が大きく、病院運営審議会が発足され、経営改善の検討が行われました。新聞でも話題になりましたとおり、平成19年度より熊本県内では初めて「地方公営企業の全部適用」となり、院長を事業管理者として「信頼される地域医療」を経営理念に経営健全化計画を策定し、現在も全職員一丸となって経営改善に取り組んでいます。

### ボランティアが大きな力に

このような病院の経営危機に際し、職員の努力は当然なことながら、地域住民の皆さまの協力・応援も大きなものがありました。平成17年に地域婦人会が「ボランティアの会」を発足していただき、当番制の2~6名のグループで、毎週月曜と木曜の昼食を挟んだ4時間で、洗濯物たたみ、外来患者の付き添い、配茶、リハビリや特殊浴時の送り迎え、シーツ交換などを行ってくださいます。

赤字病院というレッテルを付けてのスタートでしたので、当初は、普段病院を利用されない地域の方からは、「市民病院は要らない」との言葉もありました。しかし、ボランティアを通して病院を知っていただき、身近に感じていただくこともあり、「小さな病院と思っていたけど、患者さん、多いんですね」「せっかく市の病院があるけん、利用せんばね」との言葉もいただくようになりました。職員としても、市民の皆さまの応援をじかに感じることもできるとともに、接遇や環境に関して真摯な意見をいただくことによって、患者さま目線での対応改善につながっています。



車椅子を押すボランティアさん

ボランティアは他にも、上天草市社会復帰事業団の方々による植木せん定や花壇の除草作業、また、地元音楽サークルによるマンドリン演奏なども行われています。

## 地域や他機関とも連携して相談や要望に対応

病院においても経営改善の取り組みの一環として、第三者病院機能評価の受審に当たり、地域連携確立・患者相談を役割とする、地域医療連携室、医療相談室が立ち上げとなり、私も医療相談員として配属されました。

地域連携室は、他の医療機関や福祉施設との連携窓口として、紹介患者の受付と与薬・報告書及び検査結果の郵送・開放型病床や検査機器共同利用の運用などに加えて、地域の皆様の健康増進・維持のために中央公民館と共催して、年に数回「市民健康講座」の開催、また、本年度からは地域の皆さまから要望があれば、関連スタッフが出張し「ふれあい健康講座」も随時行っています。



市民健康講座は市民の関心も高い

医療相談室では、患者さまやご家族の心理的・経済的な不安や悩みなどの相談に対応し、必要な社会福祉制度や資源への橋渡しを行っています。退院支援もその一環ではありますが、上天草市では65歳以上の高齢者率31.5%と熊本県内でも高い地域であり、子どもが遠方の都市圏に在住のため、一人暮らしや老々介護の夫婦二人暮らしの方も多く、在宅復帰が困難であったり、施設を申し込んでも待機者が多くて、なかなか順番が回って来ず、順番が来たとしても年金生活では経済的に入所が難しいなどのケースも少なくありません。病院経営においては平均在院日数との関係もあり深刻な問題ですが、近隣の施設・介護支援事業所・行政などと連携して対応するとともに、患者さまやご家族にも「治療が必要な人が、いつでも利用できる環境を整えるために」と、ご理解とご協力をお願いしています。

## 上天草の地域医療を守るために

本年度は10年ぶりの診療報酬プラス改訂が行われましたが、地方の小規模病院では医師はじめスタッフの確保など、施設基準を満たすのは難しく、依然厳しい状況には変わりありません。しかしながら、各部署の取り組みや賞与の独自カットなどのさまざまな経営改善の結果、平成19年度には17年ぶりに黒字を生み出し、当面の課題でありました不良債務返済も、本年度中にはどうにかめどが立ってきました。

上天草地区の地域医療の崩壊を食い止めるためにも、さらなる経営改善を図り、地域の方々から「よかった」と評価されるサービスを提供できるよう、今後も全職員で取り組んでいきたいと思っております。

